みずかん通信 令和３年 初夏 発行

2018/7/6 豪雨災害で寸断された門司区の道路

２０２１年の春が終わり、季節の変わり目ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様もご存じの通り、県内に３度目の緊急事態宣言が発出され、当館も５月末まで休館を余儀なくされました。ご来館予定だった方やイベントに参加を予約されていた皆様方にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきたいと思います。職員一同、皆様に早くお会いできること、並びにこの状況がいち早く収束に向かうことを願っております。再開館しましたらどうぞ、また当館にお越しいただきたく思います。

さて、今年は例年より２０日ほど早く入梅し、空模様につられてなんとなく憂鬱を感じてしまう方も多いのではないでしょうか。それにしても、かつては梅雨どきの雨や湿気を形容する独特の日本語として「ししとと」や「ぽつぽつ」、「じめじめ」といった表現が使われていましたが、ここ数年は尋常ではないほどの豪雨に見舞われることが増えました。決して「ざーざー」では収まらないほどの濁水を湛(たた)えた流れが、轟音をたてて人の暮らしを巻き込む光景はできればもう見たくないものですが、圧倒的な自然災害を前に、人間は敵いません。今年もすでに川やため池での事故が数件報道されています。どうかこれをご覧の皆様、雨の前後は絶対に川に近づかないようにしてください。また、この頃の不安要素として、猛威を振るっている変異株が挙げられますが、いざという状況であれば、臆することなく「避難」を優先してください。事が起きての判断では間に合いません。とにかく避難が大切です。ただ、やはり感染症も軽くとらえるわけにはいきません。指定避難所だけでなく、比較的安全な地区にお住いの親戚や知り合いの家、ホテル、在宅避難、場合によっては車内なども選択肢に挙げられます。(車中避難の場合は必ず安全な場所にしてください。また、移動もできるだけ明るい時間にしましょう。夜間の移動は大変危険です。)

昨年に引き続き、今年もしばらくは様々な面での不自由が強いられると思います。不要不急の外出が叫ばれる中、自粛生活に疲れたという方も多いでしょう。日本は今のところ強制的な都市封鎖(通称ロックダウン)がなく、また、人との接触をしっかり避けられるなら、多少のリフレッシュのためにフィールドへ出向くことが絶対にダメとは思いませんが、「自分の命を自分で守る」ことが「誰かの命を守る」ことにもつながります。川に流された人を助けようとした人までも溺れてしまうこと、過度な人との接触で医療従事者にさらなる負担を与えてしまうこと、これらは「自分の命を自分で守ること」で多少なりとも防げるかもしれません。

これから約１カ月半、梅雨が続きます。雨は人々にとって恵みをもたらすものですが、同時に危険をもたらすこともあります。パンデミック(世界的大流行)以前とまではいきませんが、皆様にとって少しでも楽しい夏を迎えられますように。

～飼育員の戯言～「甘えてばかりでごめんね」

紫川河口の州浜(すはま)広場では現在、体長６cmほどのイシガレイの幼魚がたくさん見られます。普段は砂の中に隠れて暮らしていますが、人が近づくとサーッと逃げていくため、泳ぐ姿を見ることもできます。また、コツさえ掴めば網でも捕まえられます。

ところ変わって市内某所の海岸。ここでも毎年この時期になると多くのイシガレイと出会えます。そんなある日、いつも通りカレイを探して、いつも通り「おなじみのイシガレイね」と思っていたのですが、よく見ると何かイシガレイの雰囲気じゃない…。体が細身だし、顔つきや模様もちょっと違う?ん～?ん～?これもしかして**マコガレイ**じゃねぇか!私が毎年会いに来てたカレイはほとんどみんなこれだったな。あれれ?ってことはずっとイシガレイと思ってたこの子たちはみんなマコガレイだったのか!ということで、沿岸の波打ち際で見られるカレイの幼魚は大抵イシガレイだという思い込みがあったのですが、ここは結構な数のマコガレイが混ざっていたのでした。オーマイゴッド!!イシガレイという先入観に**甘えてたよ!マコ、ごめんね…。**今までずっと気づかなかったなんて…。

このマコガレイは現在、水環境館で展示しています。(とはいえ休館中ですが…。)しかも砂に隠れている様子を真上から見られる水槽にいますので、イシガレイと一緒にいるマコガレイを、ぜひ上から**見つめて**みてください!

マコガレイ

新コーナー「水族館ルーム（仮称）」建設中！

水槽が立ち並ぶ「まなびエリア」の一角に、しばらく使われていない小部屋がありました。倉庫としていろいろなものが置かれていましたが、それはもったいないと言うことで、新しく展示スペースを作っています(というかほぼ完成しています)。その名も「水族館ルーム」。ひと昔前の水族館をイメージして作ってみたのですが、我ながらあっぱれ！良い出来じゃないですか！ちょっと水槽台が低いかな？という点は否めませんが、お子様にとっては見やすいのではないでしょうか。まなびエリアの水槽では紫川に生息する生き物を展示していますが、ここでは、県内の他の川に生息する魚を展示しようと考えています。ただし、その肝心な魚たちはと言うと…。不要不急の外出自粛の中、あまり遠くまで行くわけにもいきません。とりあえずは市内の魚を展示しようかな。展示のテーマは主に「県内に生息する希少種と国内移入種※下記かいくんのおさかなトーク参照」を予定しています。再開館の時にはお披露目できると思いますので、みなさまどうぞお越しください。

水槽台も自作。120 ㎝水槽台も作りましたが、なんと 120 ㎝水槽が無いことが判明！完全に勘違いでした！

カバーはプラスチックの板(プラ段)を使用。真ん中をくりぬき、解説パネルが透けて見えるように作りました。

反対側の壁面にもあります。部屋の明かりを消すとこれがまた良いんです！それは来てのお楽しみ！

初夏の河口を覗いてみよう！

寒かった冬が終わり、春の終わりごろから多くの生き物が活発になってきます。紫川河口でも多くの生き物が見られるようになり、生き物探しが楽しみな季節になりました。あんまり身を乗り出すと危ないけど、そぉ～っと川を覗き込むといろんな生き物が見られるかも？川の近くにお住まいの方はぜひ、散歩がてらに覗いてみてください。

飼育員の戯言 にも登場したイシガレイ！今の 時期はたくさん見られますが、成長に伴って海の深い場所へと移動していきます。

とっても可愛いシマイサキちゃん！勝山公園前の水上ステージ(カヌー乗り場)で会えました。シャレオツなしましま模様がキュートです♡

州浜広場で採取したアカエイ。尾を切られており、残念ながら採取後に死んでしまいましたが、こんな魚も水深40 ㎝ほどの場所で見つかりました。

※尾には毒針があるので触らないように！

かいくんの おさかなトーク ～タモロコ編～

紫川には生息していませんが、小倉南区を流れる河川では、群れて泳ぐ姿を見ることが出来ます。以前は九州在来の淡水魚とされていましたが、九州での分布が不連続(北九州市、福岡市、有明海沿岸といったように不自然に点在している)ことなどから、現在は本州から持ち込まれた「国内移入種」と考えられています。移入の経緯ははっきりと分かっていませんが、養殖魚が逃げ出したのでは?という説があるようです。

一般的に「外来生物」と言うと、主に海外から持ち込まれた「国外外来生物」のことを指しますが、国内の別地域からの移入は「国内外来生物」と呼ばれ、その地域にとって侵略的な影響を及ぼす恐れがあるものは駆除の対象となる場合があります。ただ、国内外来生物は広い意味で言うと「日本の魚」であるため、オオクチバスやブルーギルと言った国外外来生物と比べて問題視されにくく、種によっては原産地で希少種とされていることもあり、その対応が難しいものもいます。上の欄で紹介した「水族館ルーム」では、このタモロコも展示する予定です。

この魚、ぱっと見は地味な印象を持たれがちですが、まさしく日本の淡水魚といった雰囲気で、派手な魚にはない渋さがあります。外来生物は厄介者とされる向きがありますが、決してその生き物自体に非はありません。「普通の見た目の普通の魚」が持つ魅力をぜひ見に来てください。

福田海輝(かいくん)
日本産魚類と全国の市民会館が好き。まだまだ若いはずですが、年々残尿感の倍々ゲームがヤバいです。

水環境館 RIVER MUSEUM

住 所 / 北九州市小倉北区船場町 1-2
開館時間 / 10:00～19:00 休館日 / 原則火曜日(長期休暇期間中除く)・年末年始
お問い合わせ / 093-551-3011
指定管理者 / 玄海グリーン＆アドベンチャー共同企業体

http://mizukankyokan.jp